

# 地恵地楽(ちけいちらく)で 地域と関わる



高木農園 高木 智美

## ◆ 播種作業が始まりました

こんにちは。効率的な農作業、充実した畑作経営。どうも！キャリア農婦です。今年も春の播種作業が始まって二ヶ月が経とうとしています。嫁に来て今年で一〇回目の作付けは、冬の間にたくさん話し合っただけで、段取りに無駄のないよう努めています。今年は何となく「寒い！」。こんなに汗をかかない播種作業があったかと。厚手の作業着で動き回る日が多かったです。

羊蹄山麓はそこそこ雨に当たり、水分が有り条件は悪くないと思いますが、気温が低いので畑の乾きが悪く、そこで播種作業に徐々に遅れがきます。「慌てない。待つ。」とかお笑い芸人のネタで妄想に駆られています。

それでもだいたい例年通りに馬鈴薯、豆類の播種が終わり、あとは人参が出荷

調整されているので、七月一〇日近くまで一週間から一〇日間の日数をずらし播種作業は続きます。

農繁期に一番私自身が「無駄」と感じていることは、喧嘩を含めた揉め事です。これからいざ！時くぞー！という時に些細な喧嘩が始まるのが、本当に無駄な時間ですね。そんなことを解消するのは冬の間には十分夫婦で打ち合わせをする。それに伴う喧嘩や揉め事は冬の間には十分。北海道は冬の農閑期があり、畑作は一年に一作しかできないので、失敗したくない思いが強いです。だから農業女子プロジェクトで知り合った友達に話を聞くと本州の農業は一年の播種、管理、収穫のサイクルが北海道より短く、確定申告の時も収穫作業があるので驚きます。さて、人参以外は播種も終わったので、これからは管理作業に移ります。「一足で稼ぐ嫁」の出番です。余談ですが「稼

## 高木 智美 (たかぎ ともみ) さん

- ・昭和53年生まれ 後志管内京極町出身
- ・家族構成は夫と夫の両親、子供2人の6人家族
- ・平成12年実家で就農、平成18年結婚、平成20年両親から経営移譲を受ける
- ・羊蹄山麓の京極町で畑作中心に32haの経営
- ・北海道若手女性農業者団体「LINKS」、農業女子プロジェクトなどに参加
- ・平成28年から個人で栽培、販売している白小豆が商品化。「白小豆どら焼き」として、まずは地元で愛される商品になるように、コンセプトは「地恵地楽：ちけいちらく（地元の恵みを地元で楽しむ）」です！



べ」と「嫁べ」という字は似てますね。「稼べ」の禾（のぎへん）は稲の穂先の象形文字だそうです。昔は「お米＝収入」だったので禾（のぎへん）はお金に関する字につけられるのでしょうかね。じゃ、「嫁」は？というところ、分かりません。ググりましょう。

### ◆京極町 共生型地域福祉拠点

現在、京極町福祉協議会での活動に参加しております。話は今年初めに戻りますが、一月に声を掛けられ以降協力参加しております。町内の空き家を改築。「共生型地域福祉拠点」とし、町民に活用していただくのが目的です。

住民作戦会議と称し昨年十二月から会議を重ねています。会議の参加者は町民です。その中では一人一人の「得意」「やりたいこと」が地域課題の解決に繋がるかもしれない。さらに明るく元気な

京極町になればいいなどの思いもあります。

具体的にはまずは三月一日～二〇日の三日間のプレオープンイベントに向けての話し合いです。会議の参加者は幅広く、若い母親や元教職、同じ農業者、協力隊の方もおり、様々な「得意」と「やりたいこと」がありました。

農業者として私が協力できることとして、昨年、高木農園で商品化された「白小豆どら焼き」をイベントで販売しようと思いましたが（いつか商品化の話を書きます）。一個三〇〇円で販売されているどら焼きを一個二五〇円の町民還元価格とし、三日間で二〇〇個の販売を計画しました。「地恵地楽（ちけいちらく）」地元の恵みを地元で楽しむ。これは白小豆の栽培を通して、どら焼きという商品になった時に私が想い描いた言葉です。地元で愛される商品になって欲しいと思い

ます。だから今回のイベントにも惜しまず協力しようと思いました。

イベント当日、まだ雪が多く残る寒い中でしたが改築された空き家では人が溢れ、おかげさまで白小豆どら焼きは一九〇個が売れました(惜しい)。その他にもワークショップや料理、展示などでイベントは盛り上がり三日間を終えました。

### 【問題点】

プレオープンイベントは成功したと思いますが、此処からが新たな出発だと感じました。

①まだしっかり町民全体に拠点の周知・認知が行き渡っていないこと。

②ワークショップやイベントの継続がまだ不足していること。

③福祉協議会ボランティア無料と思われていること。

この三つは私自身が問題だと思っていることです。①と②はすぐに解消できそうです。問題は三番目。この地域福祉拠点の運営は補助金で賄われている部分があります。寄付を「夢基金」と名付け、そちらから共同募金A配分の二割。

・一年目 夢基金から約一五〇万円、  
共募A配分から五〇万円。(初年度の  
み)

・二年目 夢基金から約一〇〇万円。  
・三年目 夢基金から約三〇万円。  
・四年目以降はありません。

この拠点の年間の維持費・固定費に約一六〇万円かかります。今年は賄っても来年以降、足りない部分は費用を捻出しなければなりません。・安易に「募金をしていけばいいじゃん」って考えていたら、この拠点は続かないと思

ます。お金を生み出す運営が理想なのでしようが、まずは拠点を絡めて町民でお金を回するような運営にしていくのが今のベストなカタチかもしれません。

### ◆ 軽トラ・朝マルシェ

共生型地域福祉拠点での周知・認知を強化できればと考え、農園の軽トラを使って旬の野菜や加工品を販売しようと思画しました。

この町の特徴として、やってみて更に成功させると定着していく傾向があります(辛口でスイマセン)。だから協力農家さんをいきなり募集はせず、声を掛けたのは少数で。実家である「ゆう・ゆうふあーむ」様がグリーンアスパラガスを出品。私は白小豆どら焼きを。そして低温でアスパラガスの収穫量が少ないことから、仲良くさせてもらってる三笠市の「のみやまファーム」様からブロッコ



▶ 共生型地域福祉拠点での  
「軽トラ・朝マルシエ」



▶ 喜茂別町の農業女性  
「小松平文奈」さんと

リーとカリフラワー。JAよついでい京極  
支部女性部の加工品である、人参ジャム  
や切り干し人参・ごぼう。

そして、今回、心強い協力が現れて  
くれました。喜茂別町の農業女子「小松  
平文奈」ちゃん。グリーンアスパラガス、  
ホワイトアスパラガスの出品と共に売り  
子も一緒にしてくれました。畑が隣同士、  
そして以前のトラクター講習会にも参加  
していたいた農家のお嫁さんです。

「自分の栽培している農産物を見比べた  
り、消費者と直に話をして勉強したい」  
という強い想いに惹かれました。当日は  
ホワイトアスパラガスの美味しい茹で時  
間の説明書を自分で作って、お客様に  
配っていた姿を見て、誘って良かった  
なあと思いました。彼女にはこれからも  
マルシエに携わっていただきます。

マルシエは六・七月第二・四土曜日、  
朝七〜九時の二時間を計画。農業女子P



▶「きょうごく楽しみ隊」のメンバー  
会長は大木二郎さんです。

」で参画している企業、「東洋ハウジング」様の協力を得て、マルシェキッドをレンタルしそれを使って軽トラの荷台で販売。

一回目の軽トラ・朝マルシェは六月一〇日土曜日。当日は悪天候の土砂降りマルシェになってしまいました（笑）。

それでも傘をさして来ていただいたお客様には心から感謝しました。寒い土砂降りでも心は温かく、二時間で加工品以外は全て売り切る事ができてホッと安堵。次回の六月二四日にはもう少し農産物の品目を増やせるように努力したいと思えます。

私自身も小さいけれどマルシェを企画したのは初めてでしたが、楽しめましたし、畑だけでなく自分に合った野菜を栽培していこ

うと思えました。

### ◆きょうごく楽しみ隊！

六月一九日大安に設立総会を開き、農・商・工・福祉・行政の様々な業種の人が集まり、「きょうごく楽しみ隊」という会を設立することになりました。目的は、京極町を自らの力で明るく楽しい町にするため、魅力あるまちづくり活動を推進することです。

京極町は体育館、図書館、プールなど施設は充実していますし、子育ての面でも保育料第二子以降の免除、給食費も第二子以降免除など、そして水道料金も道内でも基本料金は低い方で暮らしやすい方だと思えますが、おもだった特産品は：：など、少しだけ物足りなさもあります。そしてやはり少子高齢化は感じます。

今回、この会を立ち上げる意味はとて

も大きく、様々な業種が協力し合うと出来ることの幅も広がりを見せるはずですよの名前も子供から高齢者までわかりやすく『ぎょうぎく楽しみ隊』。その名の通り、京極町で京極町を楽しんでもらうワケです。

計画中のイベントは三つ

・フットパス（町内をトレッキングし知る）

・ピアガーデン（町民同士の交流）

・デイキャンプ（子供達に楽しんでもらう）

立ち上げたばかりでこれからイベントが始まりますが、農業者として協力できることはしたいと思いますし、私自身も京極町を楽しみたいです。

今年是我が町、京極町を「地恵地楽」でガッツリ関わりを持ちたいと強く感じています。「あー！京極町に住んで良かった!!」と思える町民が増えることを祈ります。



▶春の播種作業  
羊蹄山にはまだ雪がたくさん残っています